

2026年3月期 第2四半期(中間期) 決算短信補足資料

2025年10月30日(木)

【名証メイン市場】 証券コード:6111

 旭精機工業株式会社

売上高は、主に自動機・専用機の売上が増加したものの小口径銃弾の売上が減少したことから、前年同期比+3.5%の50億7百万円となりました。

（ ）は前年同期比

精密金属加工品：19億2千2百万円（▲1.2%）

✓ 水晶振動子関連部品を中心に、減少

小口径銃弾：11億3千万円（▲22.2%）

✓ 政府の予算執行を受け、減少

プレス機械：12億2千万円（+11.7%）

✓ 大型機種の上売が多かったため、増加

ばね機械：3億2千6百万円（+47.6%）

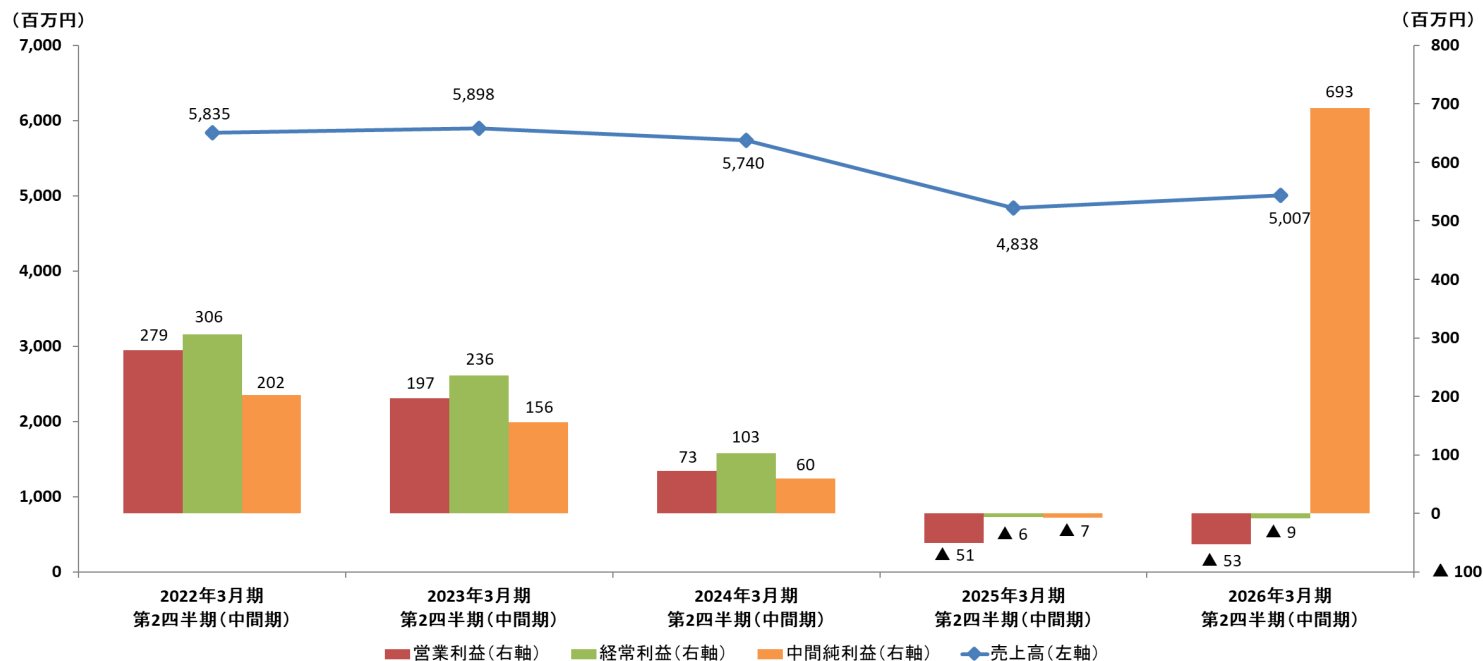
✓ 特殊仕様の高価格機種の上売があったことなどから、増加

自動機・専用機：3億8千9百万円（+248.9%）

✓ 自動車向けが増加したため、増加

第2四半期（中間期）の売上高・利益推移

(単位:百万円)	2022年3月期 第2四半期（中間期）	2023年3月期 第2四半期（中間期）	2024年3月期 第2四半期（中間期）	2025年3月期 第2四半期（中間期）	2026年3月期 第2四半期（中間期）
売上高	5,835	5,898	5,740	4,838	5,007
営業利益	279	197	73	▲ 51	▲ 53
経常利益	306	236	103	▲ 6	▲ 9
中間純利益	202	156	60	▲ 7	693

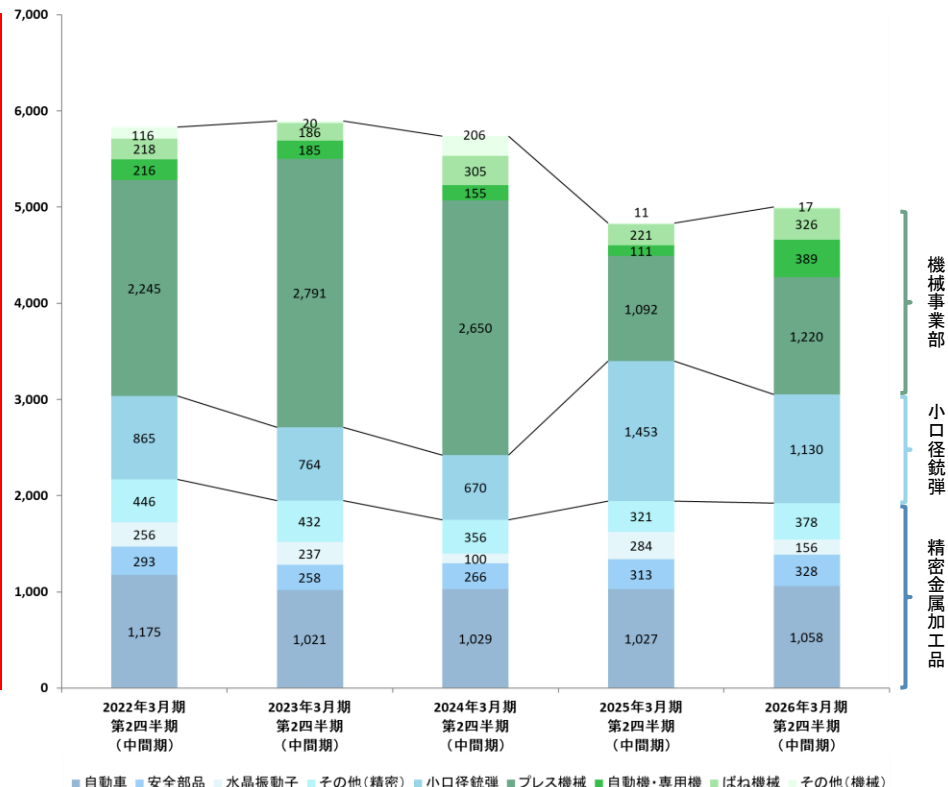


第2四半期（中間期）のセグメント別売上高推移

（単位：百万円）

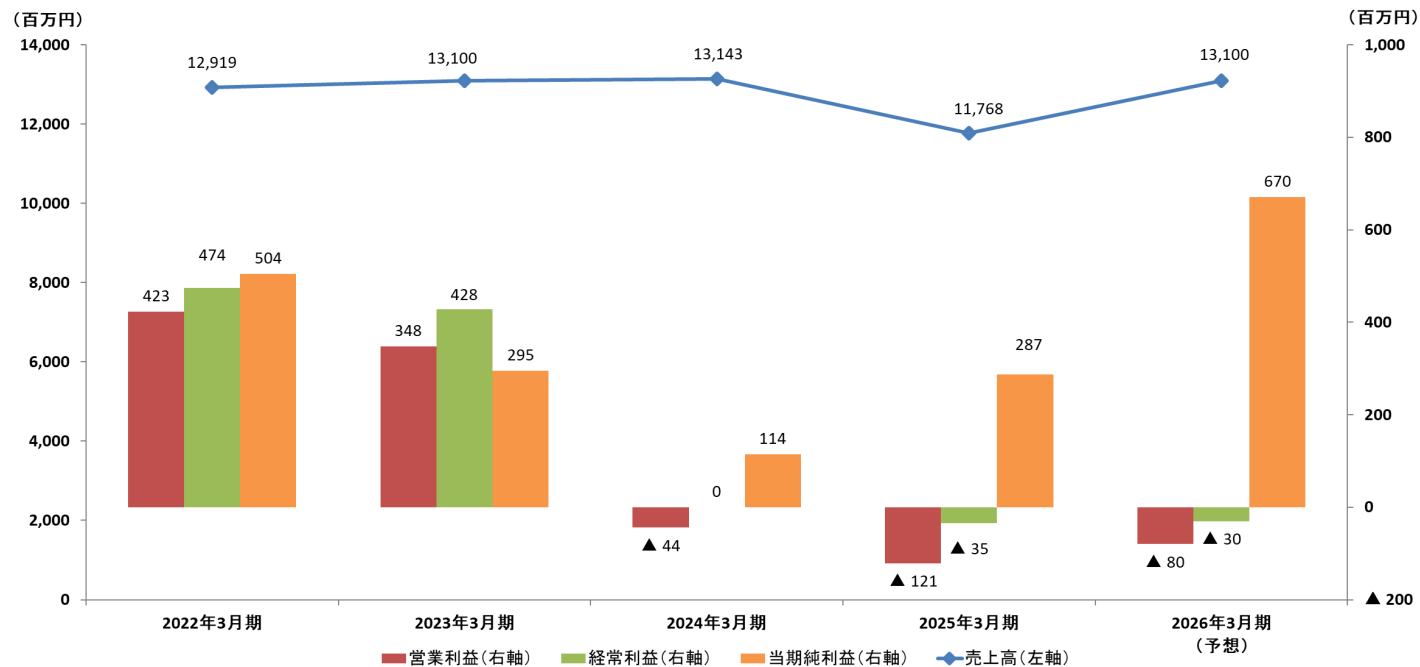
	2022年3月期 第2四半期 （中間期）	2023年3月期 第2四半期 （中間期）	2024年3月期 第2四半期 （中間期）	2025年3月期 第2四半期 （中間期）	2026年3月期 第2四半期 （中間期）	前年比
精密加工事業部	3,038	2,714	2,422	3,400	3,052	▲ 10.2%
精密金属加工品	2,172	1,949	1,752	1,946	1,922	▲ 1.2%
自動車	1,175	1,021	1,029	1,027	1,058	3.0%
安全部品	293	258	266	313	328	5.0%
水晶振動子	256	237	100	284	156	▲ 44.9%
その他（精密）	446	432	356	321	378	17.6%
小口径銃弾	865	764	670	1,453	1,130	▲ 22.2%
機械事業部	2,797	3,184	3,317	1,438	1,955	35.9%
プレス機械	2,245	2,791	2,650	1,092	1,220	11.7%
自動機・専用機	216	185	155	111	389	248.9%
ばね機械	218	186	305	221	326	47.6%
その他（機械）	116	20	206	11	17	45.2%
合計	5,835	5,898	5,740	4,838	5,007	3.5%

（百万円）



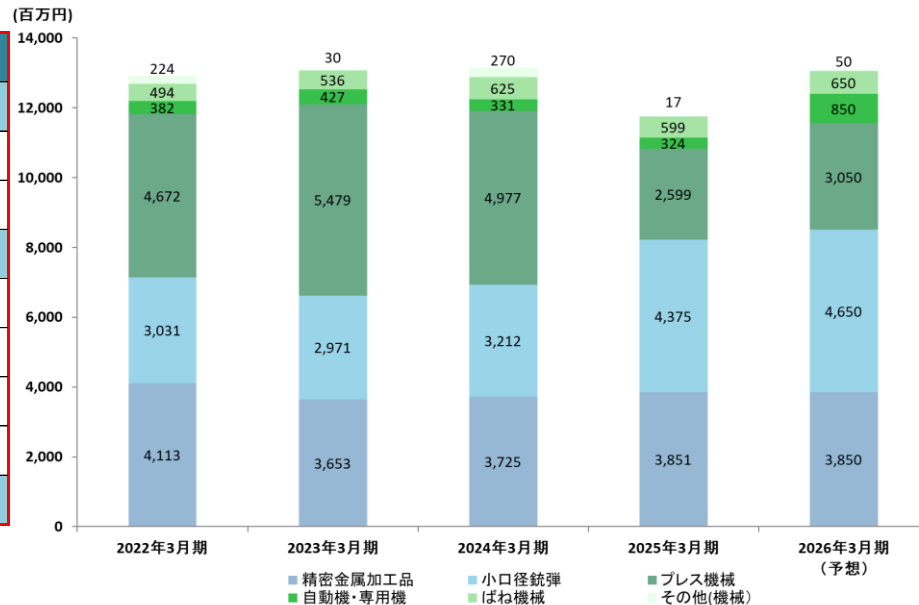
通期の売上高・利益推移及び予想

(単位:百万円)	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 (予想)
売上高	12,919	13,100	13,143	11,768	13,100
営業利益	423	348	▲ 44	▲ 121	▲ 80
経常利益	474	428	0	▲ 35	▲ 30
当期純利益	504	295	114	287	670
1株当たり 当期純利益	207円64銭	118円78銭	45円99銭	115円60銭	278円88銭



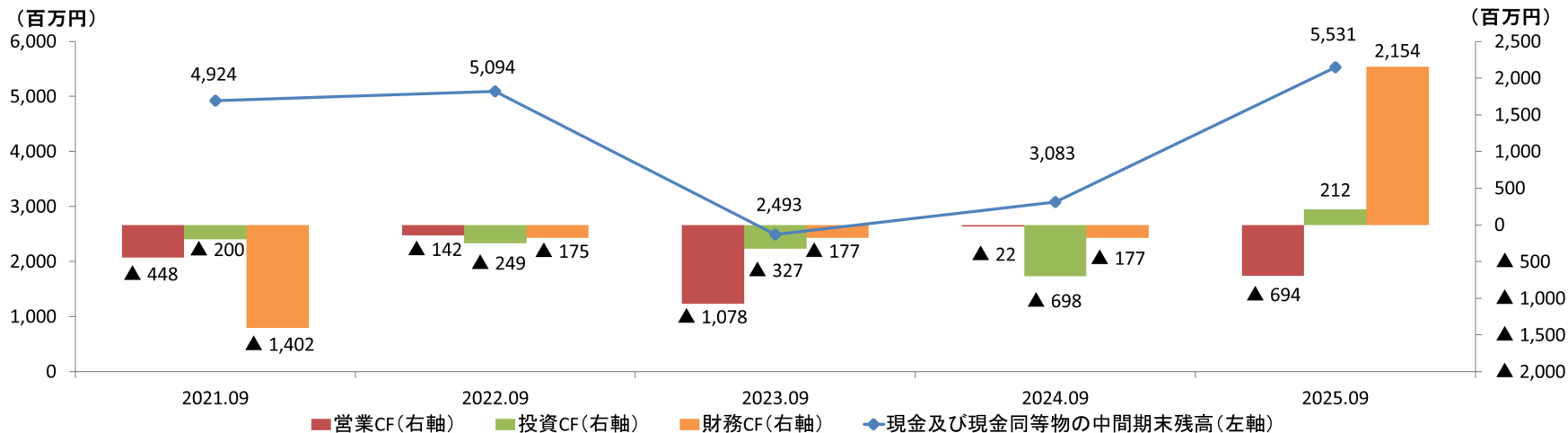
通期のセグメント別売上高推移及び予想

(単位:百万円)						
	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 (予想)	前年比
精密加工事業部	7,145	6,625	6,937	8,227	8,500	3.3%
精密金属加工品	4,113	3,653	3,725	3,851	3,850	0.0%
小口径銃弾	3,031	2,971	3,212	4,375	4,650	6.3%
機械事業部	5,774	6,474	6,205	3,541	4,600	29.9%
プレス機械	4,672	5,479	4,977	2,599	3,050	17.4%
自動機・専用機	382	427	331	324	850	162.3%
ばね機械	494	536	625	599	650	8.5%
その他(機械)	224	30	270	17	50	194.1%
合計	12,919	13,100	13,143	11,768	13,100	11.3%



第2四半期（中間期）のキャッシュ・フロー推移

(単位:百万円)	第2四半期(中間期)累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	第2四半期(中間期)累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	第2四半期(中間期)累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	第2四半期(中間期)累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当第2四半期(中間期)累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲ 448	▲ 142	▲ 1,078	▲ 22	▲ 694
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 200	▲ 249	▲ 327	▲ 698	212
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,402	▲ 175	▲ 177	▲ 177	2,154
現金及び現金同等物の中間期末残高	4,924	5,094	2,493	3,083	5,531



キャッシュフロー状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物は55億3千1百万円 前事業年度末比 16億7千3百万円増加

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

✓ 前事業年度末より主に、税引前中間純利益を8億9千4百万円及び減価償却費を3億3千万円計上したものの、投資有価証券売却益を9億3百万円計上による減少及び棚卸資産の増加により8億7千3百万円減少。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

✓ 前事業年度末より主に、有形固定資産の取得により6億6千4百万円支出したものの、投資有価証券の売却により10億4千6百万円収入。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

✓ 前事業年度末より主に、自己株式取得により2億9千2百万円支出したものの、長期借入金として26億円収入。

財政状態の推移

(単位:百万円)	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 第2四半期 (中間期)
総資産	20,140	20,460	20,678	20,012	23,339
純資産	13,560	13,617	14,173	14,170	13,993
自己資本比率	67.3%	66.6%	68.5%	70.8%	60.0%
1株当たり純資産	5,448円11銭	5,471円65銭	5,694円95銭	5,694円17銭	5,958円32銭

資産、負債及び純資産の状況

(総資産) : 233億3千9百万円、前期末比+33億2千6百万円

✓ 主に、投資有価証券が6億5千7百万円、受取手形及び売掛金が4億5千2百万円それぞれ減少したものの、現金及び預金が16億7千3百万円、有形固定資産が11億6千4百万円、電子記録債権が5億1千2百万円それぞれ増加。

(負債) : 93億4千6百万円、前期末比+35億3百万円

✓ 主に、長期借入金により26億円及び設備関係電子記録債務が4億2千2百万円増加。

(純資産) : 139億9千3百万円、前期末比▲1億7千7百万円

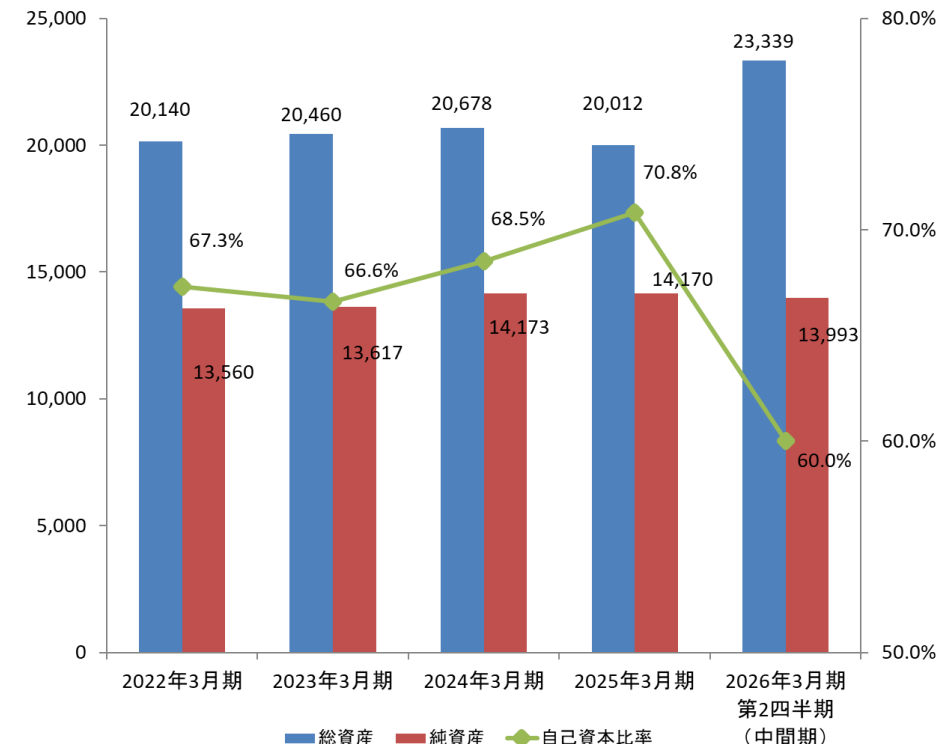
✓ 主に、利益剰余金が5億4千3百万円増加したものの、その他有価証券評価差額金が4億2千8百万円減少したこと及び自己株式が2億9千2百万円増加。

設備投資(工事ベース)・減価償却費の推移及び予想

(単位:百万円)	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 (予想)
設備投資	374	825	916	781	3,055
減価償却費	783	697	671	745	782

財政状態の推移

(百万円)



Topic 1. 次世代自動車部品(xEV部品)の製造増強

本社敷地内の工場に約34億円投資し、精密金属加工品事業におけるxEV関連部品の製造に本格的に参入いたします。

(2026年2月 量産開始予定)

要求水準の高い本部品の量産に向けて精密加工事業部の量産加工技術と機械事業部の機械技術を組み合わせ、全社としてより一層強みを発揮できる生産体制を整えてまいりました。

現在は量産開始に向けた生産準備段階に入っており、高品質な製品を量産できるよう、引き続き取り組みを進めてまいります。



(xEV関連部品 生産ライン)

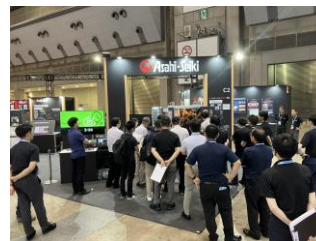
Topic 2. MF-TOKYO、TECHNO-FRONTIER へ出展

① MF-TOKYO 2025(会期:7月16～19日 @東京ビッグサイト)

ばね成形機の実機3台、ばね研削機、IoTシステムの紹介パネル及びプレス機により生産される電動車用バッテリーケースのサンプルを展示。
特に電動化や省人化対応機の「T4」「C2」が来場者の関心を集めました。

② TECHNO-FRONTIER 2025(会期:7月23～25日 @東京ビッグサイト)

自社製トランスファープレスによる様々な超深絞り部品をはじめ、偏芯絞り加工や両端しごき加工等の高難易度の絞り加工技術を展示。
特に偏芯絞りと角絞りが来場者の関心を集めました。



(MF-TOKYO 2025)



(TECHNO-FRONTIER 2025)

Possibility

Technology opening up new possibilities



IRに関するお問い合わせ先
旭精機工業株式会社 事業開拓・IR室
TEL: 0561-52-5356

【将来に関する記述等についてのご注意】

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその現実を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。